

# 食総合研究センター

Research Center for Gastronomic Arts and Sciences



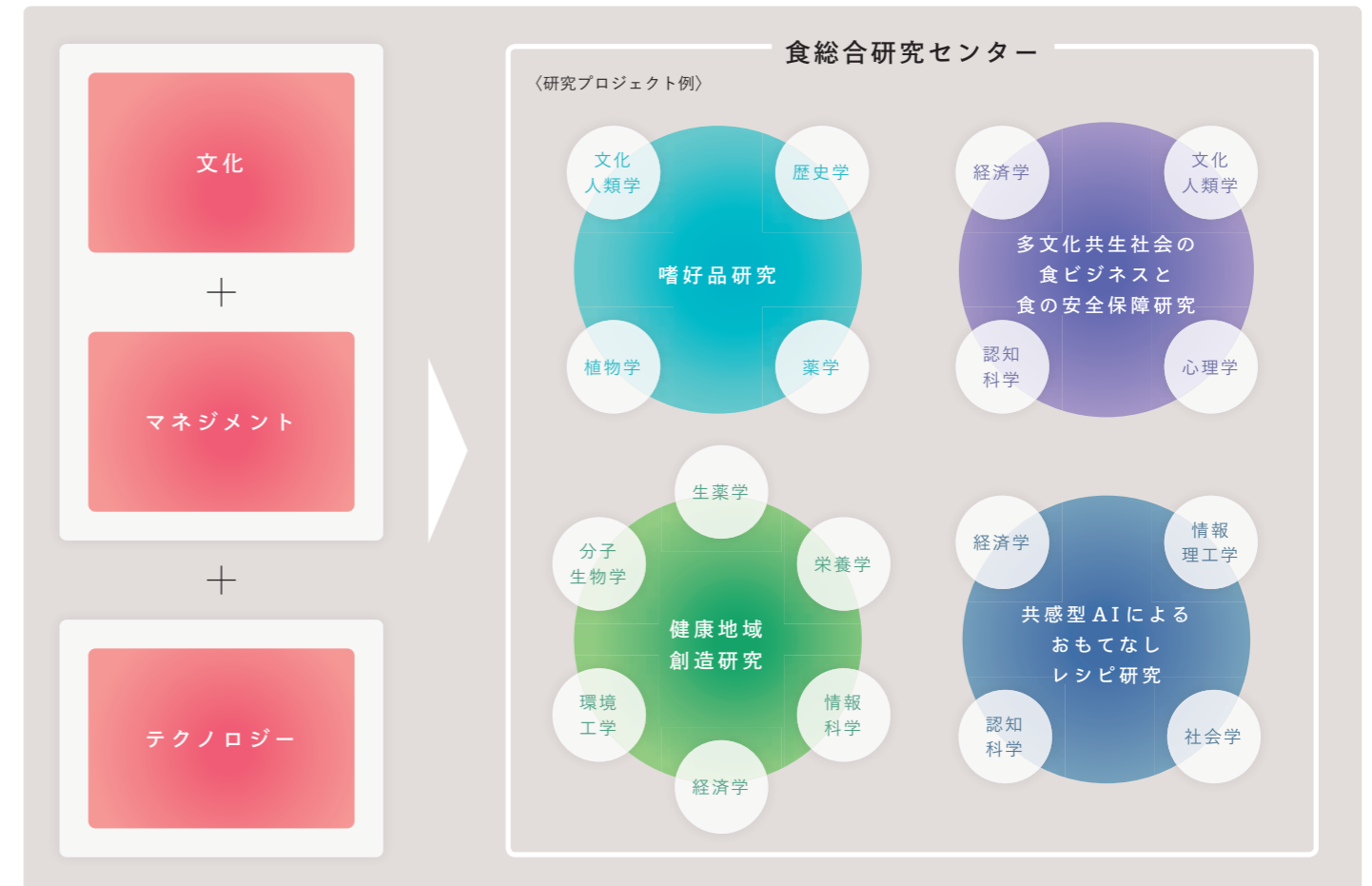
## 世界にあふれる「食」問題の本質を捉え、解決に導く 食の国際的な情報集積・研究拠点を目指す

食総合研究センターの目的は「食科学」の研究、すなわち「食」の総合的な研究を推進することです。現代の世界は「食」にかかわる様々な問題に直面しています。そうした問題の本質をとらえ、その解決に導くためには、人文科学、社会科学、自然科学の枠を超えた学際的・文理総合的な研究が必要とされます。同センターではこうした視点に立って、食文化、食マネジメント、食テクノロジーといった多様な分野の研究を、立命館大学の内外の食に関心を持つ研究者の皆さんとともに推進していきたいと考えます。

### 事業内容

- 食文化に関する理論研究や事例研究
- 食を通じた異文化理解とグローバル化への対応
- 食を通じた社会のイノベーション
- 新しい食テクノロジーの開発

### 食総合研究センターの研究活動の例



### 想定される研究協力の例

総合大学としての立命館の潜在能力を最大限に発揮できる分野であり、食の国際的な情報集積拠点として大きな発展が期待できます。

- 「亜州食学論壇」(アジアの食文化を研究する国際研究組織) との研究協力
- 伝統食・郷土食の情報収集・整理を通じた地域振興
- 「2050年の食卓」を見据えた食によるソーシャル・イノベーション
- 味覚の認知研究を軸とした味覚教育や新たな食品の開発
- 効果的な栄養教育を通じた健康的な食生活の実現に向けた取り組み
- ウィズコロナ・アフターコロナ社会における食生活のあり方の探究

### 主な研究テーマ

- 大規模災害時における食糧輸送に関する地理学的研究
- ハラル認証による外国人観光客へのホスピタリティの研究
- 日本全国の郷土食で利用される食材や調理技法に関するデータベース構築
- 外食産業における顧客サービスや従業員の労働環境改善にかかわるシステム工学的研究
- 食品関連企業の経営組織のあり方に関する研究
- 国境を越える移民の食を軸としたエスニックコミュニティにおける文化研究
- 食をモチーフに多感覚知覚、エキスパート知覚、乳児期知覚発達、消費者認知特性等の研究
- ビタミンDの骨やカルシウムの恒常性・代謝作用に関する研究
- 温暖化対策評価、環境持続性指標の開発、廃棄物リサイクルの評価体系に関する研究
- イタリアにおける食を通じた地域政策の事例研究およびイタリアの味覚教育方法の研究



センター長：阿良田 麻里子(食マネジメント学部 教授)  
 主な研究拠点：びわこ・くさつキャンパス  
 お問い合わせ：立命館大学(びわこ・くさつキャンパス) アクロスウイング TEL: 077-561-5047 ㊚: syoku@gst.ritsumei.ac.jp  
<https://rogas-ru.org/>